opusdei.org

無原罪の聖マリアへ の9日間の祈り―8日 目

黙想のテーマ:「平和の女 王、マリア」「兄弟との和 解|「神の子らの平和|

1日~7日目の黙想

平和の女王、マリア

兄弟との和解

神の子らの平和

イエスは昇天しました。使徒たちは 主の復活の証人でありながら、未だ 権力者たちを恐れています。そんな 折り、彼らは「心を合わせて祈っ て」(使徒言行録1・14)いたことが 窺えます。お互いに支え合うことが 必要です。この集まりで、マリアは 特別な場所を占めています。彼ら は、マリアを母として迎え、マリア は子どもたちとして彼らに対しまし た。彼らは、敵対者に囲まれている ような雰囲気の中で聖母と共にい て、母親に抱かれた子どものような 安心感に浸っていたことでしょう。 その平和は、聖霊降臨でより完全な ものになり、自分の父として神に向 かうことができるようになりまし た。同じ時代の聖パウロが記してい ます。「神が『アッバ、父よ』と叫 ぶ御子の霊を、わたしたちの心に 送ってくださった事実から分かりま す。ですから、あなたがたはもはや

奴隷ではなく、子です」(ガラテヤ4・6-7)。聖霊降臨によって使徒たちは、恩恵に満たされたマリアに見られる平和のうちに、暴力や敵と向きました。マリアの合うことができました。マリアのるように、イエスの「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる」(マタイ5・9)とができるでしょう。

恩恵に依って聖霊を受けた私たち は、キリストにおいて神の子である と納得しています。「これが私たち の強さであると確信しています。私 たちは、全てをご存知で、全てが可 能な御父に愛されているのです | [1] と、属人区長がコメントしていま す。ご托身によって、神はマリアの 霊魂に住むことを確かなものとし、 もっとも愛する娘であるマリアを、 御子の母親、聖霊の花嫁にしまし た。この三位一体の神との関係に よって、マリアは、人生での様々な

困難、特に、イエス・キリストの御 母として、御子以外には経験でき得 ないことで苦しまなければならな かった事柄を落ち着いて受け入れる ことができたのです。使徒たちは、 神との親密な一致の実りとしての平 和を与えてくれる聖マリアに、慰め を求めていました。この8日目に は、使徒たちのように、平和の女王 としてのマリアにより頼むことがで きます。「あなたの心、家庭や仕事 場の雰囲気、社会生活や国々の間で 騒ぎが起きるなら、〈平和の元后、 我らのために祈り給え〉と言う叫び を繰り返しなさい。少なくとも、あ なたが落ち着きを失ったとき、試し てみなさい。効き目の速さに驚くこ とだろう | 1210

イエスは、ご自分の生き方で平和を 実現しました。その御血によって、 アダムの堕罪以後、対立していた二 つの現実を和解させました。主は、 天国とこの世、神と人間を結び付て、 ました。つまり、ご自身を捧げて、 私たちに永遠の命の扉を開いてくだ さったのです。ですから、平和を図 する人は、単に二者間の融和を図る だけの人ではありません。自分自気 だけの大で、周りを平和な雰囲気に していく人です。

含めて、神と兄弟たちとの一致を守 ることの価値を、学び取ることがで きるでしょう。もっとも身近な環境 である家族生活において、キリスト から聞いた言葉が思い起こされま す。「あなたが祭壇に供え物を献げ ようとし、兄弟が自分に反感を持っ ているのをそこで思い出したなら、 その供え物を祭壇の前に置き、まず 行って兄弟と仲直りをし、それから 帰って来て、供え物を献げなさいし (マタイ5·23-24)。イエスにとっ て、神殿のいかなる荘厳な典礼に参 加するより、兄弟との平和な交わり の方が重要でした。このことから、 イエスは、仲たがいしながらも表面 的には平穏に共同生活をするよう な、一時的な平和な生活をお望みで はありません。私たちに望んでおら れる真の平和とは、自己の意見は脇 に置き、人生をより高貴な善を得る ためのものと考えることです。つま り、神の子どもたちであることを弁 えるように仕向ける共同体を、作り

上げて行くことです。「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる」(マタイ5・9)。

しかし、この平和は、他者の欠点と か幾らか侮辱的な態度とかを、避け 得ないことのように考えて単に我慢 する、というだけの問題ではありま せん。平和のために働く人は、それ に携わるとき、まずその望みから利 益を得ます。それは単に、それを成 し遂げた後の平和な共同体を喜ぶこ とだけではなく、聖霊の実りとし て、自己の周りに平和と理解し合う 見方と心が、広がっていくからで す。以前は、ある兄弟との小さな 〈戦い〉が予想されたようなことも 含めて、今は、清めと一致、恩恵に 開かれた道であることが分かりま す。「神の子どもたちは、平和とそ れを行動に移すことを学びました。 自己の奉献なしに和解を達成するこ とはできません。いつも、どんな時 でも平和を求めなければなりません」 ③。二人の兄弟を仲直りさせるのに、母親以上に優れた人はいません。使徒たちのように、兄弟間の交わりが神の平和に満ちた健全なものであるよう、無原罪の御母に強めて頂きましょう。

 います。それは、私たちに平和を確約するのは、自分自身の確実性ではなく、主ご自身が与えられる平和であって、この世のものとは違うものです(ヨハネ14・27参照)。

厄介なことがない生活など、想像す るのも難しいことです。皆、度々不 安を覚えたことがあるでしょう。聖 マリアでさえ、痛みや疲れ、あるい は不確実性を免れてはいなかったの です。ですから、人間の弱さをご存 知だったイエスは、単純に人間的な 落ち着きを約束したわけではありま せん。主が私たちに与える平和は、 御父に対する神の子どもとしての信 頼によって特徴づけられているもの です。「全てが崩壊し、万事がおし まいという状態になり、何もかもが 予想に反した展開を見せ、大変な不 運をもたらしたとき、困惑している だけでは何の役にも立たない。あの 預言者の信頼しきった祈りを思い出 しなさい。『まことに、主は我らを

正しく裁かれる方。主は我らに法を与えられる方。主は我らの王となって、我らを救われる』。私たちの善を思って統治なさる摂理の計画に、あなたの行動を合わせることができるよう、毎日信心をもってこの祈りを唱えなさい」
「」。

聖ルカは、人生において、理解でさまず、慌てふためくような何事かにこれたのマリアの行動にこれたりであるよう促します。「これか2・51)。私たちに、教会いろはいかも、いののではないののできます。善いののではないでも、でいるでしょう。

- [1] フェルナンド・オカリス、説教、2022年10月8日。
- [2] 聖ホセマリア『拓』874番。
- [3] フランシスコ、一般謁見演説、 2020年4月15日。
- [4] 同上。
- [5] 聖ホセマリア『拓』855番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-mugenzai-kokonoka8/(2025/12/13)